災害に備えよう

非常用持ち出し袋を準備しよう



地震などの広域災害の場合、救援物資がすぐ被災地に届くわけではありません。非常持ち出し品、3日分以上(可能な限り1週間分程度)の食料、飲料水、簡易トイレ等を日ごろから準備しておきましょう。

避難用具



- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 軍手
- 乾電池
- ヘルメット、防災ずきん
- 底の厚い靴

食料



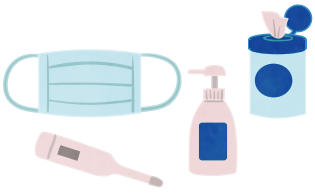
- 飲料水
- カップめん
- 缶詰、ビスケットなど

救急用品



- 常備薬
- お薬手帳等のコピー
- 絆創膏、包帯など

衛生用品



- マスク
- 体温計
- 消毒液
- ウェットティッシュ

生活用品



- ライター・マッチ・ろうそく
- メガネ
- ティッシュ・生理用品
- 簡易トイレ
  (1人1日5回分が目安)
- タオル・毛布など
- 使い捨てカイロ
- モバイルバッテリー
- 歯ブラシ・歯磨き粉
- ビニール袋(ゴミ袋)
- 寝袋

衣類



- 下着
- セーター・ジャンパー類
- 靴下
- 雨具

貴重品



- 通帳
- 印鑑
- 現金
- 身分証明書

乳幼児がいる家庭の持ち出し品

- ミルク・水・哺乳瓶



- おむつ・おしり拭き



- 衣類・下着



- 母子健康手帳



- ガーゼ・タオル



- おもちゃ



- 離乳食・おかし



こどもが食べ慣れた食品や
飲み物を備えておくと、
災害時でも安心できます。

かしこい備え「ローリングストック」がおすすめ

備蓄のコツは、3つ。

1、まずは、ふだん食べている食材を多めに買って、蓄える

2、ふだんの食事で食べる

3、食べたら買い足して、補充する

蓄える→食べる→補充することを繰り返しながら常に一定量の食品を備蓄する方法を「ローリングストック」といいます。
キャンプや山登りなどのアウトドアでも使える食品もありますので、ローリングストックを日常生活の一部に取り入れてみましょう。赤ちゃんのいる家庭はびん詰やレトルトの離乳食を多めにストックしておきましょう。またレトルトの離乳食はふだんから食べ慣れておくことも大事です。



安否情報の確認方法を家族で決めておきましょう

家族がそれぞれ別々の場所にいるときに、災害が発生したときには、お互いの安否を確認できるように、日頃から安否確認の方法や集合場所などを家族で話し合っておきましょう。
家族みんなが携帯電話を持っている場合でも、災害時は回線がつながりにくくなるため、連絡がとれない場合があります。安否確認には、「災害用伝言ダイヤル(171)」、携帯電話のインターネットサービスを利用した「災害用伝言板」などのサービスを利用しましょう。

災害伝言ダイヤル「171」

災害発生時、被災地内やその他の地域の方と伝言の録音・再生をすることができます。

伝言の録音 ▶ ダイヤル 171 ▶ ダイヤル 1 ▶ 市外局番からの電話番号

伝言の再生 ▶ ダイヤル 171 ▶ ダイヤル 2 ▶ 市外局番からの電話番号

災害用伝言板

携帯電話のインターネットサービスを活用し、被災地域の方が自らの安否を文字情報によって登録することができるサービスです。

これらのサービスは練習用に体験利用日があります。
もしものために、家族と体験してみてください。

体験利用が可能な日
- ●毎月1日、15日　●1月1日～3日
- ●防災週間(8月30日～9月5日)
- ●防災とボランティア週間(1月15日～21日)

家族の安否確認メモ

家族の連絡先　①　　②

③　　④

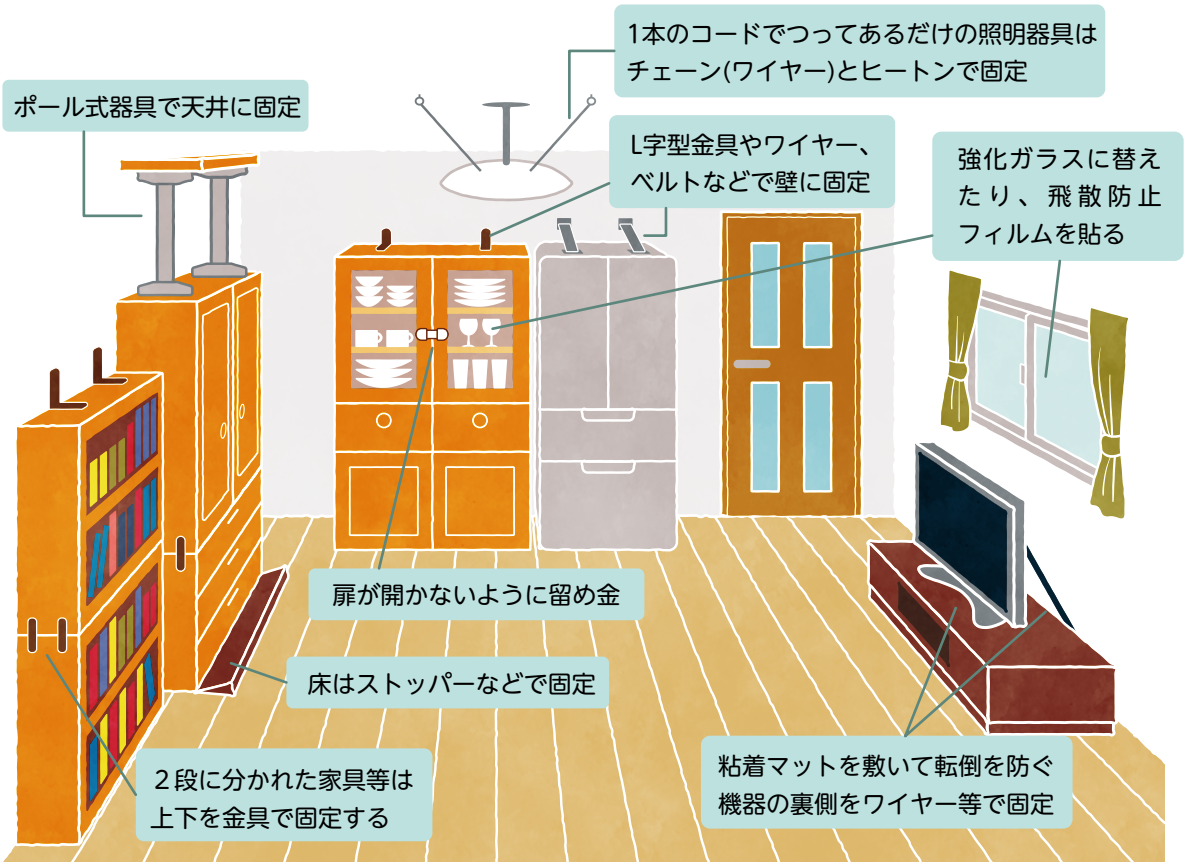
避難時の集合場所

半田市水災害ハザードマップから津波の浸水想定区域を確認し、集合場所を決めましょう。

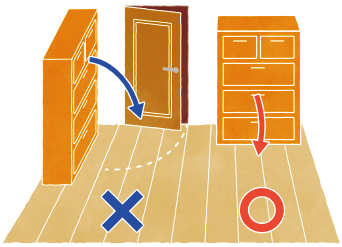
水災害ハザードマップ

家の中の安全対策のポイント

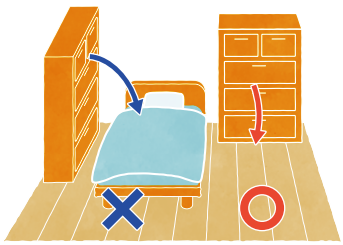
大地震が発生したときには、「家具は必ず倒れるもの」と考えて、防災対策を講じておく必要があります。
家具は転倒したりしないように、壁に固定するなどの対策をしておきましょう。また、家具のほかにも、窓ガラスやペンダント式の照明、テレビ、電子レンジ・オーブンなど、家の中には凶器になるものがたくさんあります。地震の発生時、それぞれの部屋にどのような危険があるのかを考えて、対策をしておきましょう。



寝室やこども部屋などには、できるだけ家具を置かないようにし、家具を置く場合はなるべく背の低い家具にし、転倒防止対策をとりましょう。また、家具が倒れてけがをしたり、出入口をふさいだりしないように、家具の向きや配置を工夫しましょう。



転倒しても出入り口をふさがないように工夫



転倒してもけがをしないように工夫

地震が発生したときにこどもの身を守るには?

- 座布団などで頭を保護し、大きな家具から離れ、丈夫な机の下などに隠れる
- 赤ちゃんやこどもに覆いかぶさり、頭を守る
- こどもが離れた場所にいるときは「机の下に入って!」「ダンゴムシのポーズ」など指示をする

